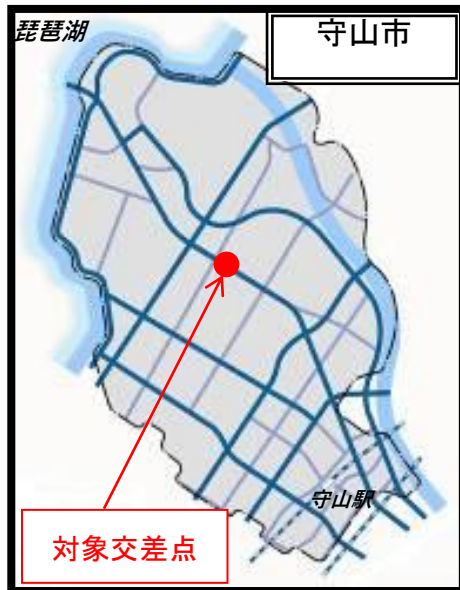


社会実験の概要

期間:平成26年1月15日～平成26年3月20日

内容:

- (1)無信号交差点をラウンドアバウト(環状交差点)に改良し、以下について検証。
- ・車両の安全性の検証(2ケースで実施)
 - ・自転車・歩行者の通行性や安全性の検証
 - ・交通ルールの周知や利用者意識に関する検証

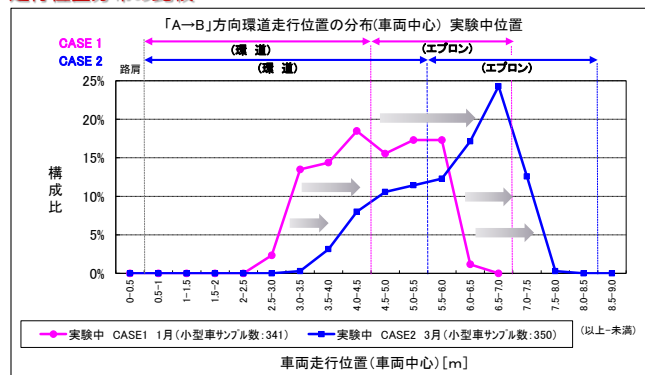
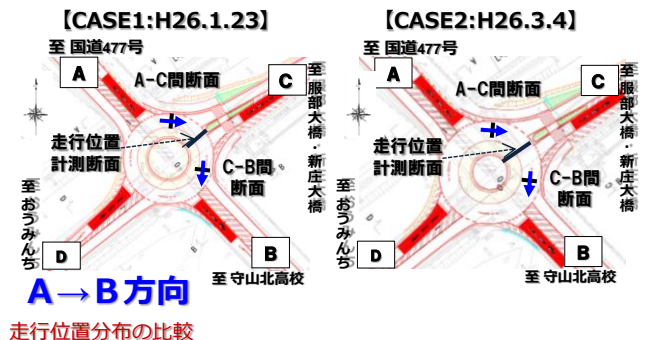
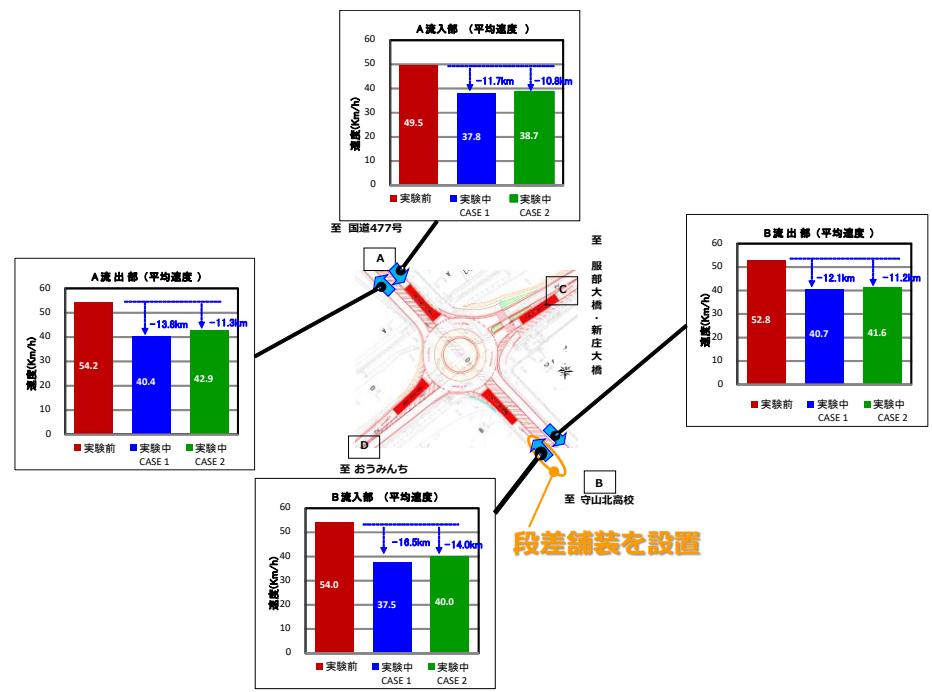


CASE1(中央島直径12.0m、エプロン幅員2.5m)
CASE2(中央島直径9.0m、エプロン幅員3.0m)
の走行位置分布と環道速度を比較。

実験結果

- 車両の安全性の検証(2ケースで実施)
 - ・CASE1、CASE2ともに流出入速度は実験前の流出入速度に比べ低下
 - ・CASE1の方が速度抑制効果が高い

- ・中央島直径を短くしたCASE2の走行位置は、CASE1に比べ、中央島側内側を直線的に走行する割合が増加し、高速車の割合が増加



本格実施に向けた課題

- ・走行車両のエプロン部の走行割合が高いことから、車両の環道走行割合を高めるために、ラウンドアバウトの幾何構造を改善させる必要がある。
- ・道路交通法の施行等により、利用者への交通ルールの周知・徹底、配置すべき案内・規制標識などの交通ルールの明確化を図る必要がある。